

# Asia Indicators

発表日: 2023年9月15日(金)

オーストラリアの雇用は非正規を中心に堅調さが続く(Asia Weekly(9/8~9/15))

~インドのインフレ率は食料インフレが押し上げ圧力となり、2ヶ月連続の中銀目標超えで推移~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/8(金)	(台湾)8月輸出(前年比)	▲7.3%	▲8.0%	▲10.4%
	8月輸入(前年比)	▲22.9%	▲16.3%	▲20.9%
9/9(土)	(中国)8月消費者物価(前年比)	+0.1%	+0.2%	▲0.3%
	8月生産者物価(前年比)	▲3.0%	▲3.0%	▲4.4%
9/11(月)	(マレーシア)7月鉱工業生産(前年比)	+0.7%	+0.2%	▲2.2%
9/12(火)	(インド)7月鉱工業生産(前年比)	+5.7%	+4.8%	+3.8%
	8月消費者物価(前年比)	+6.83%	+7.00%	+7.44%
9/13(水)	(韓国)8月失業率(季調済)	2.4%	--	2.8%
9/14(木)	(オーストラリア)8月失業率(季調済)	3.7%	3.7%	3.7%
9/15(金)	(フィリピン)7月海外送金(前年比)	+2.6%	--	+2.1%
	(インドネシア)8月輸出(前年比)	▲21.21%	▲22.00%	▲18.10%
	8月輸入(前年比)	▲14.77%	▲9.33%	▲8.31%
	(中国)8月鉱工業生産(前年比)	+4.5%	+3.9%	+3.7%
	8月小売売上高(前年比)	+4.6%	+3.0%	+2.5%
	8月固定資産投資(年初来前年比)	+3.2%	+3.3%	+3.4%

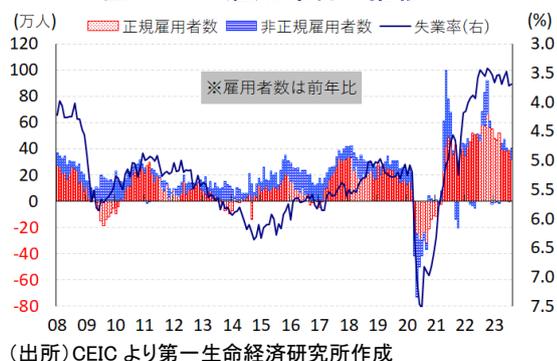
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [オーストラリア]~非正規雇用をけん引役に雇用底入れが進むなか、労働市場への参加意欲も依然高止まり~

14日に発表された8月の失業率(季調済)は3.7%となり、前月(3.7%)から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比▲0.3万人と前月(同+3.7%)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、雇用形態別では正規雇用に対する求職者数(同+0.6万人)が2ヶ月連続で拡大している一方、非正規雇用に対する求職者数(同▲0.9万人)が2ヶ月ぶりの減少に転じたことが全体を下押ししている。ただし、中期的な基調は前月の大幅拡大の動きを反映して上昇基調が続いている。一方の雇用者数は前月比+6.5万人と前月(同▲0.1万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、雇用形態別でも非正規雇用者数(同+6.2万人)が2ヶ月連続で拡大するのみならず、正規雇用者数(同+0.3万人)もともに拡大しているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。地域別では、すべての州で雇用拡大の動きが確認されている上、大都市部のみならず、資源関連産業が盛んな西オーストラリア州でも雇用拡大の動きが加速する動きがみられるなど、全般的に改善している様子がうかがえる。

なお、足下の雇用底入れの動きは非正規雇用がけん引役となる動きがみられるものの、労働力人口は前月比+6.2万人と前月（同+3.6万人）から拡大ペースが加速しているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めており、労働参加率も67.0%と前月（66.9%）から+0.1pt上昇して過去最高を更新するなど参入意欲は依然として高い状況が続いている。

図1 AU 雇用環境の推移



### [インド]～インフレ率は鈍化も中銀目標を上回る推移、生活必需品を中心に幅広くインフレ圧力はくすぶる展開～

12日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+5.7%となり、前月（同+3.8%）から伸びが加速した。ただし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。比較的堅調な動きが続いた鉱業部門の生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるとともに、製造業の生産は2ヶ月連続で減少するなど一段と下振れしている様子が見え始めるほか、幅広い経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も減少に転じるなど、底入れしてきた景気が頭打ちの様相を強めていると判断出来る。製造業についても、耐久消費財を中心とする消費財関連の生産が弱含みするとともに、中間財や資本財など川上の段階に至るまで幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かるなど、全般的に弱含む動きがみられる。

同日に公表された8月の消費者物価は前年同月比+6.83%となり、前月（同+7.44%）から鈍化したものの、2ヶ月連続で中銀（インド準備銀行）の定めるインフレ目標（4～6%）の上限を上回る伸びで推移している。前月比は▲0.05%と前月（同+2.93%）から8ヶ月ぶりの下落に転じており、前月に大きく上昇したエネルギー価格の動きに一服感が出ているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も落ち着きを取り戻す動きが確認されるなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退したことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.79%と前月（同+4.94%）から一段と鈍化する展開が続いている。前月比は+0.35%と前月（同+0.40%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇一服の動きを反映して輸送コストの上昇圧力が後退していることを受けて財価格の上昇ペースが鈍化する動きがみられる一方、サービス物価を中心に上昇圧力が掛かる動きが確認されるなど、インフレ懸念がくすぶる状況は変わっていない。

図2 IN 鉱工業生産の推移



図3 IN インフレ率の推移



### [韓国]～失業率は過去最低を更新も、雇用の質は悪化している上、労働市場からの退出の動きも広がる展開～

13日に発表された8月の失業率(季調済)は2.4%となり、前月(2.8%)から0.4pt改善するとともに、今年5月の水準を下回るなど過去最低を更新している。失業者数は前月比▲11.4万人と前月(同+6.0万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど調整の動きを強めている様子が見え始める。年代別でも、10代を除くすべての年代で減少する動きがみられ、20代や30代、40代といった働き盛り世代のみならず、60代以上の高齢世代でも減少するなど幅広い世代で改善している。一方の雇用者数は前月比+7.7万人と前月(同▲9.6万人)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調は減少傾向で推移するも底打ちの兆しが出ている様子が見え始める。年代別では、40代以外のすべての年代で拡大しており、20代や30代のみならず、60代以上でも拡大の動きが確認されている。雇用形態別では、非正規雇用者で拡大する動きがみられる一方で正規雇用者数は減少するなど、質的な面では雇用環境は悪化している可能性が考えられる。なお、雇用拡大にも拘らず労働力人口は前月比▲0.4万人と前月(同▲0.4万人)から3ヶ月連続で減少するなど労働市場からの退出する動きが広がり、年代別でも20代のほか、40代以上の幅広い年代で減少するなど雇用環境は厳しさを増している様子が見え始める。こうした動きを反映して労働参加率は64.2%と前月(64.3%)から▲0.1pt低下しており、表面的な失業率の低下の背後で雇用を取り巻く状況は極めて厳しいと捉えられる。

図4 KR 雇用環境の推移

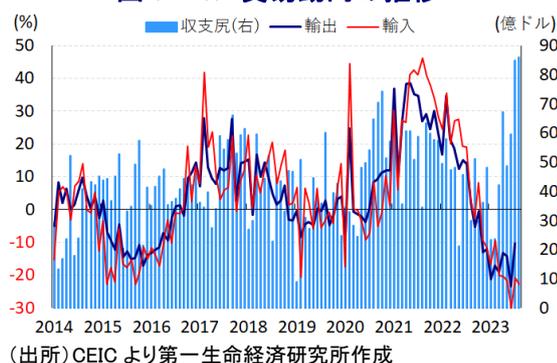


### [台湾]～輸出は一進一退の動きが続く一方、輸入は一段と頭打ちの動きを強め、貿易黒字は過去最高を更新～

8日に発表された8月の輸出額は前年同月比▲7.3%と12ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲10.4%)からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲4.7%と大きく拡大した前

月（同+15.3%）の反動も重なり2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きが続いており、依然として力強さに乏しい状況にある。財別では、鉱物資源関連の輸出に底打ち感が出ているほか、食料品関連の輸出に底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の輸出に下押し圧力が掛かるとともに、機械製品や化学製品などの輸出が弱含んでいることが輸出全体の重石となっている。国・地域別では、ASEANなどアジア新興国向けは比較的堅調な動きをみせているほか、米国向けにも底堅さがうかがえるものの、最大の輸出相手である中国本土向けが弱含むとともに、日本向けや欧州向けに下押し圧力が掛かっていることが影響している。一方の輸入額は前年同月比▲22.9%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲20.9%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲5.7%と大きく拡大した前月（同+10.0%）の反動で2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。輸出を巡る不透明感を反映して電子部品などをはじめとする素材・部材関連の需要に下押し圧力が掛かっているほか、商品市況の調整の動きも重なり金属関連や鉱物資源関連の輸出額に下押し圧力が掛かっていることも影響している。結果、貿易収支は+85.91億ドルと前月（+84.79億ドル）から黒字幅が拡大しており、単月ベースの黒字幅は統計が入手可能な1981年以降で最大となっている。

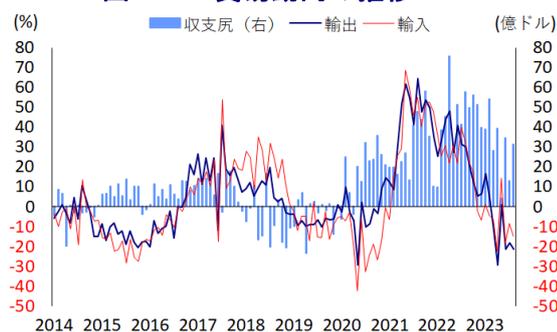
図5 TW 貿易動向の推移



#### [インドネシア]～世界経済の減速懸念が輸出の重石となる一方、輸入の大幅減を受けて貿易黒字幅は拡大～

15日に発表された8月の輸出額は前年同月比▲21.21%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲18.10%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少ペースで推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、原油や天然ガス関連といったエネルギー資源のみならず、その他の鉱物資源や製造業、農産品など幅広く輸出は力強さを欠く展開が続いており、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の重石となっている。一方の輸入額も前年同月比▲14.77%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲8.31%）からマイナス幅も拡大している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。財別でも、原油や天然ガス関連の輸入に下押し圧力が掛かるとともに、これら以外の輸入額も下振れしており、輸出の低迷に加えて内需も弱含みしつつある様子がうかがえる。結果、貿易収支は+31.24億ドルと前月（+12.92億ドル）から黒字幅拡大している。

図 6 ID 貿易動向の推移

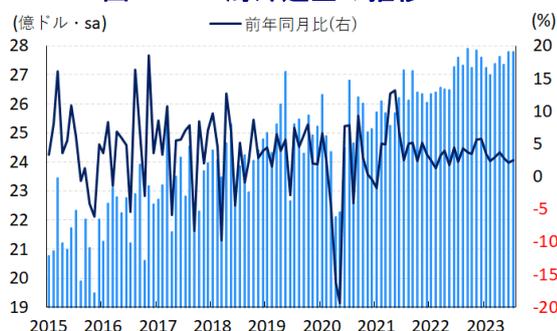


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン]～米国や中東からの移民送金は堅調に推移も、ペソ安一服に伴いペソ建てで下押し圧力が掛かる～

15日に発表された7月の海外移民労働者による資金流入額は前年同月比+2.6%となり、前月(同+2.1%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。なお、当月は通貨ペソの対ドル相場の調整の動きに一服感が出ており、ペソ建てで換算した流入額は前月比で横這いと試算されるほか、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの動きを強めている。海外送金はGDP比1割に達する上、家計消費をはじめとする内需を下支えしていることを勘案すれば、この頭打ちの動きは内需の足かせとなる可能性に留意する必要がある。全体の4割を占める米国からの流入は引き続き堅調な推移をみせるほか、中東からの流入も底堅い動きをみせる一方、欧州やアジアからの流入が頭打ちしていることが重石となる動きもみられる。

図 7 PH 海外送金の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～鉱業部門の生産に底堅さも、世界経済の減速懸念が輸出財を中心とする製造業の足かせに～

11日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+0.7%となり、前月(同▲2.2%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+1.66%と前月(同▲1.73%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。分野別では、原油や天然ガスなど鉱業部門における生産活動に底入れの動きが鮮明になっていることが生産全体を押し上げている一方、製造業の生産活動は弱含む展開が続いているほか、経済活動の影響を受けやすい発電量は下押し圧力が掛かる様子がうかがえるなど、生産底入れにはほど遠い状況にあると判断出来る。製造業のなかでは、自動車など輸送用機械関連や食料品やたばこなどで生産に底堅い動きが

みられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連やコンピュータをはじめとする電気機械関連、石油化学関連など幅広い分野で生産が弱含む動きが確認されるなど、世界経済の減速懸念の高まりが輸出財を中心とする生産活動の足かせになっている様子が見えてくる。

図 8 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。